

学校だより

プラタナス



令和3年9月10日(金)

市川市立市川小学校

No.16

校長 蜂須賀 久幸

<https://ichikawa-school.ed.jp/ichikawa-sho>



経営全体や授業、施設・設備、様々な対応などを見直す

「一クラスの人数が多くて大変な中、一人一人をよく見てくれている」「感染者が出てもクラスターが発生することなく、普通に学校生活を送れているのは先生方のお陰」「想像していた以上に目配りしていただいている」「先生の対応がとても丁寧でありがたく、安心感を得られている」「様々な支援を考えて実際に色々やっていただいている」という声とともに、「コロナで先生方も気がつかうことが増えて大変だろうが、一緒に子供のことを考えて乗り越えましょう」というメッセージに力が湧きます。

その一方で、「厳しい指導とともに、生徒を褒めることも同時に行って欲しい」「教師の発言が子どもに与える影響を考えてほしい」「言葉使いなど、教育者としての自覚を持って欲しい」「もっと個人の特色を生かし、些細なことですぐに注意するのではなく、なぜそのような行動をとるのかを考えて欲しい」など、厳しいご意見も頂戴しています。

さらに、目標に向けた授業実践や児童の興味・関心を高める授業の工夫改善、あるいは指導方法とその質のレベルアップを望む声も聞かれました。

これらは、7月に実施させていただいた学校評価にあったご意見です。



目の前の児童一人一人への目配りや心配りを怠ることなく、学習意欲と学力・体力の向上等、課題は山積しています。その一方で業務改善も叫ばれます。相反することとして捉えるのではなく、両立していくことが、現在そしてこれからの学校には求められているといえます。そのためには、保護者や地域の方々のお力をお借りしなければならないことが多々出てくることが予想されます。また、学校独自にできることと限界があること、できないこともあります。ぜひ、多くの皆様のご理解とお力添えをお願いします。

以下、様々なご意見と回答を掲載します。なお、ここに掲載していない内容も教職員で共有しています。

【1 学校経営関係】

* 少人数へという流れに逆行し、クラスの人数が多くなったことがとても残念だ。新しいマンションも建設されているが、校区を見直す等の対策を市に要望してほしい。

➡ **学級数や1クラスの児童数は法律や県規則で定められています。したがって、児童1名の増減で学級数が変わり、学級児童数が10人も違うという場合が起こりうるので慎重な対応が求められます。学区の学齢児童数の推移をとらえ、市教委と協議も行っているところです。また、多人数の学年は必要に応じて少人数指導担当等が加わるなど、複数指導体制を取り入れています。**

* クラス替えの頻度は毎年でないほうが良い。最低でも2年に一度位のほうが友達がしやすい。

* 保護者会が中止になったのは仕方ないが、7月の授業参観まで担任の声を聴くことができない事態は、何らかの回避する方法があったのではないかと。動画配信した際に話してもらうとか、保護者会で話す予定だった内容などを手紙で知らせてもらうとか…。

【2 学校行事】

* 他校に比べて校外学習などが少なく残念に思う。

➡ **感染症対策を万全にして、今年度は全学年で計画をしています。目的地を見て、体験して初めてわかることも多く、価値ある活動ですが、コロナの状況によっては中止・延期もあり得ます。**

* コロナ禍での行事（運動会や授業参観など）は密にならないようスムーズに行われたのでとても良かった。コロナ禍前の授業参観は親がたくさん来ていて教室に入れない事が多かったので、今回ゆっくり

子供の姿を見る事ができてよかった。

- * 昨年度はコロナ禍での活動制限が多いのは仕方ないことだったと思うが、今年度は感染対策に関する知識や理解も昨年度より深まっているはずなので、行事を制限するのではなく、どのようにしたら実行できるかを考えて欲しい。
 - * このコロナ禍で、丁寧な指導や対応に感謝している。授業参観・スポーツ参観も開催していただき大変ありがたい。宿泊学習も出来る事を願ってはいるが、出来なくともその過程や準備等を出来る限り頑張ったんだと説明出来るよう、家庭でサポートしたい。
 - * 今年はぜひ学校行事を全てやっていただきたい！と切に願っている。
- ➡ 実施した場合の効果と感染リスク、講じることのできる対策などを検討し、実施の可否に関して説明できるようにしています。

【3 メール等、情報提供】

- * 今までは子どもから聞く情報に頼っている事が多くあやふやに思っていたことが、ホームページやおたよりやメール等で情報を流して頂き、不安の解消に繋がっている。
 - * 学校との連絡が、掲示板（スマホ）からできるようになり、とても良い。
 - * 欠席時にメールで連絡できるようになった事がとてもよかった。
 - * 欠席連絡がメールになり、先生から返信がないことに驚いた。伝わったのかわからず不安。
- ➡ 8時15分で締め切って情報を集約した後、一覧にして担任と共有します。必要に応じて個別に電話連絡をしますが、メールでは「欠席連絡を受け付けました」という通知のみとなります。
- * 学校を休んだ際に近所のお友達が配付物を自宅まで届けてくれるというシステムだが、共働き世帯が高い割合を占め、個人情報保護される現代と逆行している気がする。手紙など急ぎでなければ、次に登校した時に受け取るのではダメだろうか。
 - * お便りやお知らせについて、紙ベースでの配付ではなく全て電子化にしてほしい。
 - * 大事なお知らせは手紙だけでなく一斉メールでも知らせて欲しい。
- ➡ 資料によっては、児童に読ませながら指導する場合もありますので、ケースバイケースで紙媒体を併用しながら、保健だよりや献立表なども支障のない範囲で電子化を進めていきます。
- * メールでくるお知らせで、「ホームページをご覧ください」と記載がある時に、ホームページのURLを貼り付けていただけるといいと思う。
- ➡ ご意見をいただいた後、すぐに対応しました。
- * 掲示板からの情報発信が非常にわかりにくく、率直に言う「読み手の想定をせずに発信者の心の声を垂れ流しているだけ」と思われることが多々ある。保護者が文章を読んだ時にどう感じるか、複数人のチェックを入れてから発信した方が良いように思う。
 - * 今回のような意見を伝える場が無い（知らないだけかもしれませんが）、メールや掲示板等の連絡手段を公開していただけると嬉しく思う。
 - * 子供のことで 気づいたことや相談したいことがあったらメールで連絡・相談できる窓口があるとよい。
 - * コロナ禍ということもあり、学校の中の様子がみえづらい。努力されているのは伝わるが、初めての小学校なのに基本事項がわからない。例えば、忘れ物はどうするか、保護者が中に入っているかどうかなど、いつも細かいことは知り合いに聞かないとわからない。
- ➡ 欠席者への連絡システムや連絡・相談窓口の開設などできることから始めて、広く周知します。



【4 おたより関係】

- * 学校の生活がもっと知りたい。また、時代の変化と共に紙で配付するお便りを減らし、ウェブなどのシステム導入をして、スピーディーに効率よく保護者に情報共有していただきたい。
- * 毎週配るプラタナスは 不要。以前にも意見が出ていましたが 紙の無駄 ではないか？

- ➡ 9月発行分からは年末までHPのみとします。希望世帯へは、持ち帰り用に印刷しています。
- * 学年日よりなど、ウェブでも見られるようにしていただけると助かる。
- * 給食費や教材費等が引き落としになったが、教材費の明細を学年日よりに記載してほしい。
- ➡ 学年だよりのHP掲載は、閲覧制限のシステムが整い次第、試行します。
- ➡ 前期と後期で教材費や学級費の会計報告を行います。購入品目を金額とともに掲載することはありません。ただし、定額引き落としのため、学年日よりでは購入額と集金額が一致しません。

【5 コロナ・熱中症対応】

- * 夏場の授業中の水分補給について、担任から許可されているクラスと、許可されていないクラスがあるようだが、ルールとして統一すると不公平感が無くなると思う。
- ➡ 水分補給以外でも統一が図られていない事案がないかどうか確認をしたうえで、教職員も児童も共通の認識で取り組みます。お気づきの点はお知らせください。
- * コロナ対策が大変かと思うが、感染者が出た場合はクラスの子全員を検査して欲しい。かなり近距離で喋っていて濃厚接触者かと思う。対策がとれないならお祭りなどの集まりはしないほしい。
- ➡ マスク着用・短時間・1m以上の間隔を判断基準として、保健所及び市教委と連携しながら濃厚接触者の特定をします。しかしながら、普段の学習や生活場面を見る限り不安は払拭できません。教職員と児童、保護者等が意識を高く持って行動できるよう不断の取り組みや呼びかけをしていきます。



【6 安全・安心】

- * 登下校に関しては自宅でも繰り返し注意しているが、先生方からも引き続き子供たちへの指導、また見守りの強化をお願いできればと思う。
- * 14号門前の歩道にガードレールが足りないと感じる。東京方面に走行する方が信号のあたりで若干カーブになっているので、安価なポールでもコーンでも何か置くわけにはいかないだろうか。
- * 相変わらず、下校時の14号門あたりが混雑している。青になった瞬間、蜂の巣から出てきた蜂のように、次々と走り出す生徒。門の内側にどれ程の児童が並んでいるのか見通しが悪く予想できないため、車のドライバーや自転車の人が困惑している。両サイドの植え込みを撤去して入口を広くすればいい。
- ➡ 問題点は植栽・施設環境よりも児童の意識・行動です。根気よく児童への呼びかけを続けるほか、人的対策も検討します。下校時に14号門で見守りボランティアや不審者侵入に対応するために、校内巡回ボランティアをしていただける方を募ることも探ります。どなたかご紹介ください。
- * 池田小の事件に対して、手紙やHPなどで危機管理に興味があることは理解できた。教師児童の訓練は良かったが、実際の水際対策に具体的な対策が感じられない。授業参観もそうだが、結局職員窓口を通さず大人が昇降口を自由に出入りできてしまうことに危機を感じる。
- * 施設設備の所々老朽化が目立つ。特に体育館のすのこに出た釘。トイレの便座や水洗レバーの壊れ。古いのは仕方ないが、安全を守るための補修や取り替えは速やかに対処していただきたい。
- ➡ 毎月、安全点検を丁寧に行っていますが、来校時や施設開放活動でお気づきになったことがあれば、教頭もしくは事務室へ直接お伝えください。

【7 PTA関係】

- * PTA役員についてですが在学中児童1人につき1〜2回などと回数を決めれば、公平に役割を担う事になるのではないかと。現状のままだと役員決めはなかなか決まらないし、何度も同じ方が引き受けて不公平だと感じる。
- * クラスの各委員を決めるにあたり、児童1人当たり2回など決められた回数は引き受けなければならないなど、ルールを決めるのが良い。また、過去の経験も考慮してほしい。不公平感がないように。
- * 今まで改善の余地があると感じていたPTA役員の決め方が、今年度はとてもスムーズでわかりやすくトラブルが少ない決め方だったのではないかと。アンケートをしているので、今後も保護者会前

に候補者を決める方法に賛成。公平性に関しては、ポイント制の導入などまだ改善の余地がある。

➡ **誰もができることを、できるときに、できる場所で、できる範囲で活動することができるPTA組織への改革を進めます。そのために、課題を抽出して来年度に向けて備えていきます。**

【8 その他】

* 市川小周辺に公園や子供達が集まれる場（以前はあった空き地やクルマの少ない路上）が少なくなってきたので、校庭開放などをして子ども達が自主的に集まり、遊ぶ場を提供して欲しい。

➡ **土日を含め、放課後保育クラブや地域登録団体の活動に学校施設を優先的に利用してもらっています。不特定多数が集まったり利用の仕方が徹底できなかったりと管理が徹底できないことによる事故・ケガの心配もあり、市川市として校庭開放を行っていません。ご理解ください。**

* 体育時の体操服の下の肌着着用に関しては、一律に脱ぐように指示するのではなく、各家庭の判断に任せてほしい。子供は幼稚園の時に脱いでいなかったもので、着替えの時に脱ぐのが嫌なようだし、保護者としても違和感がある。

➡ **肌着等を着用することは構いません。体操服同様に汗や汚れが付くため、運動後に肌着も着替えることを推奨していますが、着用の目的は一人一人違いますので、家庭の判断を尊重します。差し障りのない範囲で担任にもご相談ください。**



* 階段に数字の桁（億、兆など）を掲示する などして、楽しくビジュアルで覚える工夫などどうか。

➡ **他校でもみかけます。校内学習環境の整備の一つとして検討したい内容です。**

* 以前、同じようなアンケートがあり保護者からいろいろな要望が出たが、学校の回答に不信感を感じた。要望に対し最初から出来ない言い訳ばかり。どうやったら出来るかを全く考えるつもりが無く、教師を守る事ばかりで落胆した。アンケートを取る意味があるのか？

➡ **いただいたご意見から既に改善したこと、手立てを講じているものなどあります。残念ながら現状では困難なことも多くあります。また、できないことやとらえ方が違うことについては、その都度説明を加えているつもりですが、十分伝わっているとはいえ反省材料とします。**

* 児童の使用している椅子と机のバランスがあっていない。

➡ **夏休みを終えて体が成長している児童もいます。改めて調整をしています。**

* 市川市の小学校のタブレット学習はいつ頃からなのか目処がたっていれば知りたい。

➡ **本校 HP に掲載中の「いちかわGIGAスクール構想」のリーフレット（市川市教育委員会作成）及び9月1日に4年生以上に配付した案内を参考にしてください。まずは小4～中3でスタートします。**

プロデュース力を身につける

法政大学キャリアデザイン学部の田中研之輔教授は、『YouTube 動画をプロデューサー視点で見る』ことを推奨しています。好きなことや身近なことから、人生の本質を考えていくキャリア論を教える田中氏が述べることは、小学生にそのまま当てはめるのは難しいのですが、一端を紹介します。

- 1 これまで一番多く見てきたYouTubeの動画を開こう。
 - 2 何回も見てしまう理由(面白い、好き、感動する、不思議 etc)、自分の感情と向き合おう。
 - 3 ほかの動画と違って、どこに魅力があるのか比較検討してみよう。
 - 4 さらに良くするための自分なりの構成(サムネイル、BGM、場面展開、動画時間 etc)を考えてみよう。
- 時間があれば、これらを頭の中で考えるだけでなくノートにメモしてみるとよいといえます。そして、プロデューサー目線で動画を見るようになれば人生に劇的な変化があると、理由を付け加えます。

- 1 受動的な視聴者から能動的な制作者へと、視点が180度変わる。
 - 2 学びにおいても同様で、教科書やテストの作り手側の意識を身につければ成績も確実に伸びる。
 - 3 これからどんな人生にしていきたいのかを、自らプロデュースする土台にすることができる。
- 「今がゴールではない」「将来のもっと大きなゴールのために」というメッセージと受け取れます。